

理論編
実践編

宇宙意識という視座

Dr. for the Earth

地球のお医者さん

平井孝志

オーガニック農法・農業編・畜産編

オーガニックで健康ライフ

生命の系

循環と共生の根理

科学と経済の陥穽

物質の系

第二部
實踐編



宇宙の力借りたリンゴ作り

和楽農苑 留目 昌明

天地の摂理に従えば

自然はたった一つのリンゴにも

宇宙全体の力を宿してくれる

ミネラル施用で美味しく

最愛の人に贈る花といえ、深紅のバラの花でしょうか。「百万本のバラの花をあなたに」なんて歌もありました。私は青森県で農業を営んでいます、主に栽培しているのはバラではなく、同じバラ科の落葉高木「リンゴ」です。妻にはバラの花束を贈る代わりに、毎年好きだけリンゴを食べていただいています。

栽培しているのは「ふじ」「紅玉」「ジョナゴールド」の三品種です。リンゴのほかにもニン



和楽農苑で。右端が筆者

ニクや季節野菜を作っています。自分の身体を治すために鍼灸の免許も取得し、妻と治療院を営んでいますので、専業農家ではなく兼業農家ということになります。

有機農業を本格的に始めたのは一九八四年頃でした。「土とは何か」を考えるようになったのもその頃からです。それまで土はずっと当たり前の存在で、そのことを真剣に考えたことはありませんでした。そのことを不思議に感じたのを覚えています。「土」とは何かを考えるうちに至ったのが、ミネラル（岩石）の重要性とリンゴ畑への施用でした。

一九八八年初春、自家製有機肥料に加えてリンゴ畑に石英安山岩の粉末を一〇アール当たり四〇〇〜八〇〇キログラム入れてみました。リ

リングの葉摘みの頃になった秋、新梢しんしょうに実ったリングを食べてみると、渋みが無くてほど良い甘さがあり、今まで味わったことのない美味しさにビックリしました。

まだ元気だった頃の父が栽培していた「ふじ」は、食べるとお腹にガスが溜まったような感じになり、半分ほどしか食べることができませんでした。ですから、当時、私が主に食べていたのは、「紅玉」とか「陸奥」という少し酸味のあるリングばかりでした。父の作った「ふじ」があまり食べられなかったのは、今から思えば窒素過多が原因だったのではないかと考えています。

私は、農法や資材による味の違いなどを研究するため、前歯のエナメル質が磨り減るほどに毎年毎年リングを食べ続けました。素晴らしい味のリングができてから数年後、糖度が一六度もあって甘いのですが何となく味が単調かなという感じを持つようになりました。

「今年のリングは重い」

リングの味に単調さを感じていたときに、MRA（磁場共鳴装置）という分析器で作物の出来を測定してもらえる機会に恵まれました。リング、ニンニク、野菜などを測定したところ、二〇点満点で一六点平均でした。

一〇〇点満点の試験に例えれば八〇点ですから、及第点です。しかし点数を付けられれば、より上を目指したいと思うのは人情でしょう。味の単調さが減点に関連しているかもしれないと思い、資材や自家製有機肥料などいろいろと見直したのですが、点数はどうしても上がりません。機械が壊れているのではないかと考えなくなったこともありました。

平井先生と初めてお話しさせていただいたのは、栽培方法の再検討をしていた一九九二年頃でした。鍼灸や農業を通して、生命は地殻（ミネラル）・海の幸（海藻）・陸の幸（植物）と太陽エネルギーの結晶ではないかという考えを持っていましたので、先生のお話は非常に良く理解でき、勇気づけられました。

先生から微生物資材、サンバース、ミネリオン7などを譲っていただいて栽培したところ、どうしても一六点以上に上がらなかったMRAの数値が平均で一八点以上になったのです。

好結果に意を強くして、「誰が指導しても、何を植えても育たない」と言われていたハウスに、推薦していただいた各種資材を使ってもらなかったところ、見事に収穫できました。私もそのハウス農家の人も、「死んだ土」が見事に甦ったことに目をみはりました（次ページの写真）。

次に驚きの声を上げたのは、リングゴの収穫を二〇年以上にわたって手伝ってもらっているおばあちゃんでした。リングゴは、脚立に乗りもぎ取った実を肩から提げた網カゴに入れて収穫し



左2列がサンパース施肥区、右2列は他社区

ます。未熟な実を残して、次から次へと移動します。そんな作業を二〇年も続けていると、カゴに入るリングの数や肩で感じる重さなどは身体が覚えていきます。

各種資材の使用量の研究や海草を入れた葉面散布剤の改良などを始めて数年がたった頃には、おばあちゃんが「今年のリングは重い」「今まででこんな重いリングはなかった」「豊作だね」と、驚きながら何度も作柄を褒めてくれました。

一つ一つの大きさはほとんど変わらないのです。でもミネラルをたっぷり吸収したからでしょう、今までで最も中身の詰まったリングになったのです。天然ミネラルをたっぷり含んだリングは「薬石」（鉱物性の薬）と呼ばれるものと

同じく、健康に資するものだと考えています。

食べるだけで病気も治すようなリングゴに一步近づいたと思っています。

子房と大乗利他

心待ちにしていたウズラの堆肥（「うずら有機ゴールドジュニア」）を試してみました。するとリングゴもニンニクも、果肉の黄色味が深く味が濃くなりました。ウズラ糞のアミノ酸含有量の多さが理由だと思われれます。

全体的にM R Aの数値が上がってきた圃場にあつて、癌に対する数値だけが改善されませんでした。うずら有機ゴールドジュニアを使うとニンニクの癌に対する効果が向上したのです。収穫した生ニンニクを真空室に入れて酵素活性を抑えた「無臭ニンニク」が市販されていますが、ミネラルや海藻エキス、サンバース、うずら有機ゴールドジュニアなどを施肥して収穫したニンニクは、そのままでも臭いが少ないのです。ミネラルバランスが良く、体内酵素の働きを活性化させて、食べた次の朝もほとんど臭いがしません。魚などのタンパク質と一緒に食べると、元気が出て、疲れも吹っ飛びます。無農薬無化学肥料栽培でM R Aの数値も一九点上ありました。

現在は粉末に加工して、ニンニココーヒーとしても販売を始めました。血糖値が上がらず、いろいろな症状が改善したと喜ばれています。人造合成薬に頼らずとも、天然の薬のようなニンニクができたのです。

このような資材を使っていると、リンゴの生理にも興味深い変化が現れてきました。特徴的な変化は次の四点です。

①バラ科のリンゴの果皮に、バラのトゲに似た小さな突起が出たようになる（天地の摂理に従えば、太古の遺伝子が甦るように感じます）。

②子房（種子が入る袋）が小さくなり、種子が丸みを帯びて小さくなる。

③実が生長するに従って子房が割れてできるカルス形成（割れを修復する綿のようなもの）が、化学肥料で育てたものの倍くらいになる。免疫力が強いと考えられる。

④半分に切ったリンゴを一〇分くらい置いておいても切り口の部分が茶色くならず、乳白色のまま太鼓の皮のようになる。抗酸化作用が強いと考えられる。

天地の摂理に沿うこと。施肥一つにしても、それが摂理に合致したものであれば、自然は一つのリンゴにも宇宙全体の力を現してくれるのです。

子房の部分は仏様に例えられることがあります。リンゴ栽培を始めた頃は、生命が発生する



もぎ取ったリンゴを収穫カゴに入れる

種の入っている大切なところだから仏様に例えているのかなと思っていました。有機栽培に本腰を入れ、自然の摂理を肌身に感じようになっ
てからは、その考えが少しずつ変わってきまし
た。

さる高僧の説法で、「仏とは宇宙全体の力である」と教えられました。以来、子房のことを考えると、仏教でいう「大乘利他」の精神を思い起こすようになりました。

大乘利他とは、暗闇の中で光を放つロウソクが、自らを滅しながらも念々と他を照らすことに例えられます。我欲に走らず、自らの役割を知り、他のためになるよう実践する尊い精神を説いたものです。

同じ大きさのリンゴなら、子房や種が小さく

なればなるほど、食べていただく果肉が増えます。しかし大きな種子を大きな子房で守れば子孫繁栄にはつながります。自分のことだけを考えれば小さくしなくとも構わないわけです。

フランスでは、教育的効果が大きいことから農業を奨励しているそうです。日本の学校でも、動物であれ植物であれ「もの言わない生命」を手助けする仕事を体験し、若い時分に農業に接することが大切だと思います。そうすれば何よりも「慈しむ心」が養われるのではないでしょうか。

私たちは、生きていくうちに一つでも真理や摂理に触れられるよう、運を良くして努力することが大切です。そうなるためには、自分の種は小さく小さく、他人様への果肉は大きく大きくと心得ることでしょう。

一見すると自然の摂理に矛盾するような子房の変化ですが、それこそが自然の摂理だといわんばかりにリングゴが語りかけてきます。

こんなことを考えて仕事ができるのですから、思わず叫びたくもなるのです。

「実に百姓は楽しい」

ご注意

- 1 掲載文書は執筆時の生データを基にしていますので、推敲を経て実際に出版された文章とは若干違う場合があります。悪しからずご了承下さい。
- 2 リンクはどのページでも確認不要です。
- 3 商品宣伝・商用目的の引用についてはお断りする場合があります。
- 4 本サイトに掲載されている記事・コラム・解説文・写真・その他すべての無許可転載を禁止します。あらゆる内容は日本の著作権法及び国際条約によって保護を受けています。